

## 品 種

普及が着実に進んでいるイチ押しのおすすめ成果を紹介します。

### 水稲 にこまる



#### 暑い九州でもよく実るおいしいお米

西日本向きで、基幹品種の「ヒノヒカリ」にかわる良食味米です。高温条件下でも品質が安定している上、収量はヒノヒカリより10%近く多く、食味も各地の食味コンテスト等で数多くの入賞実績があります。長崎県、大分県、静岡県、愛媛県の4県で奨励品種に採用。加えて多くの県で作付されています。

### サツマイモ ベにはるか



#### しっとり極甘、高品質サツマイモ

しっとりとした肉質と高い糖度が特徴で、焼きいもや料理のほか、お菓子や焼酎等の原料にも適しています。いもの形の揃いがよく、収量性、病害虫抵抗性のバランスのとれたサツマイモ品種です。鹿児島県、大分県で奨励品種、茨城県で準奨励品種に採用。これら3県と千葉県をはじめとして全国で栽培が拡がりつつあります。

### ソバ 春のいぶき



#### 夏に香り高い新蕎麦になる春まき品種

5月下旬～6月上旬に収穫できる春まきソバ品種で、穂発芽しにくく収穫期の降雨に対して品質が低下しにくい特長があります。盛夏に、新鮮で香りの高い新蕎麦が味わえるため、地域特産作物として注目されており、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県など各地で産地化が進んでいます。

### ハトムギ あきしずく



#### 病気に強く栽培しやすいハトムギ新品種

草丈が低く倒れにくく、病気に強くて収量も多いハトムギ品種です。関東から九州までの広い地域で栽培できます。国内生産量の8割のシェアを占めており、ハトムギ茶や雑穀米などに加工して地域特産品として販売されています。

### イチゴ おいCベリー



#### 甘くてビタミンC含量が多いイチゴ

甘くておいしく果実の色が鮮やかで、しかも豊富なビタミンCを含む促成栽培用イチゴです。標準的な分析値では、約7粒で成人が必要とする一日分のビタミンCをとることができます。果実がしっかりしているため、輸送性にも優れています。

## 技 術

成果についてのお問合せは九州沖縄農業研究センター 広報普及室にお願いします(連絡先は裏表紙にあります)。

### 水稲乳白粒予測技術



#### 高温等による品質低下を収穫前に予測

青米の多い収穫前10日程度のサンプルでも、乳白粒発生歩合を予測できる装置を民間企業と共同で世界で初めて開発しました。稲が水田にあるうちに品質低下を予測できるため、農業共済の被害申請を促すことができるなど、生産者の被害緩和に貢献できます。測定機器の市販が開始されており、共済組合や普及センターでの導入が期待されます。

### 黒大豆クロダマルの6次産業化



#### 黒大豆品種の特徴を生かし商品開発、そして地域振興へ

「クロダマル」は、九州での栽培に適した黒大豆品種で、大粒で甘みが強くアントシアニン含量が高い特長があります。産地への働きかけと品種特性を生かした製品開発を同時並行的に進めることで、各地で6次産業化の素材として活用されており、栽培面積も急増しています。

### ヒメビウンカ 海外飛来予測



#### 海外から飛来する害虫の飛来時期を予測する

ヒメビウンカはイネ縞葉枯(しまはがれ)病の感染源となる害虫ですが、近年海外からの飛来虫による縞葉枯病が多発しています。ヒメビウンカの水田からの飛び立ち時間帯と、飛来源である中国江蘇省での水田からの移出日の地域差を解明し、それを飛来予測モデルに組み入れた飛来予測手法を開発しました。

### 麦の赤かび病防除総合防除マニュアル



#### 食の安全のため、麦のカビ毒を的確に低減する

わが国では麦の生育後期に降雨が多いため、赤かび病菌が産生するカビ毒による汚染リスクがあります。麦類の播種、防除、収穫、調製等の各生産工程におけるカビ毒汚染防止低減対策等をポイントを取りまとめたマニュアルにしました。この活用により、麦類のカビ毒汚染低減のための生産工程管理(GAP)の推進が可能になります。

### イチゴのクラウン温度制御

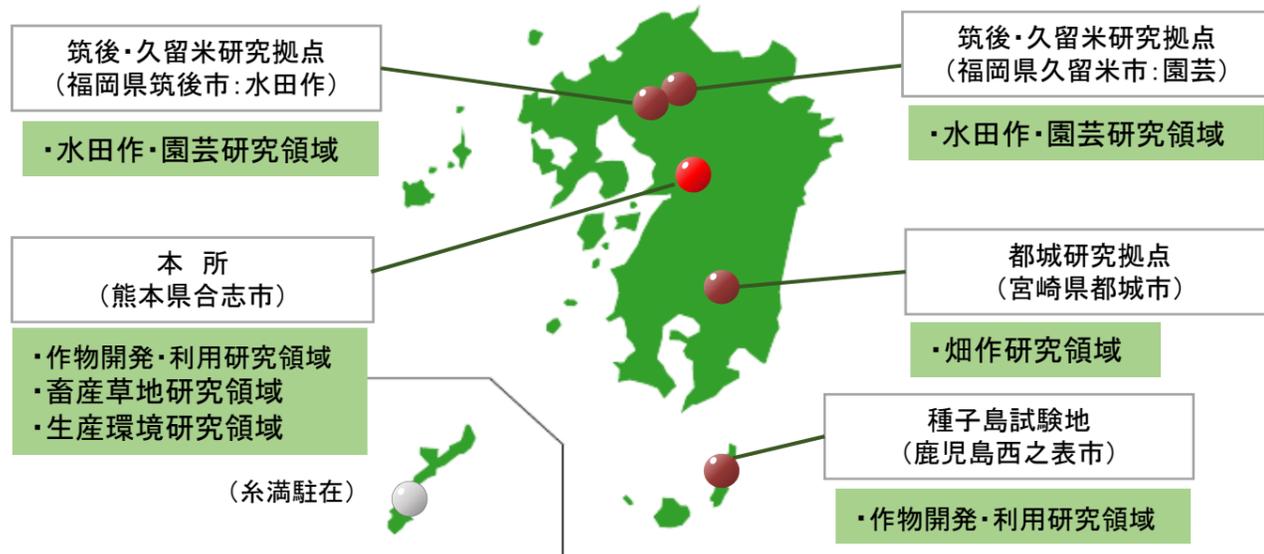


#### イチゴの収量を増やす省エネ技術

秋の高温期にイチゴのクラウン部(株元)だけを冷却することにより、花芽を効率よく作らせ、需要の多い年内および2月末までの早期の収穫量を多く出来ます。さらに、冬の低温期にはクラウン部を加温することで効率のよい加温が可能になり、暖房コスト低減を実現します。

## 農研機構 九州沖縄農業研究センターとは？

九州・沖縄地域の自然や社会と調和した農業・農村の発展、消費ニーズに応じた高品質な作物生産や生産性向上を目指し、地域農業の生産力向上につながる研究を幅広く行っています。



### ■ 新品種の開発

稲・麦・大豆・サツマイモ・サトウキビ・イチゴなど、高品質で九州に適した新品種を開発を行っています。また、それらの機能性の解明も行っています。



### ■ 持続型農業技術の開発

温暖化による気候変動に強い農業、畜産の技術や病害虫の発生予測と防除技術、環境負荷の少ない農業技術を開発しています。



### ■ 水田・畑輪作体系の開発

九州の条件にあった水田、畑の輪作作物の組合せや、効率の良い作業技術を開発し、地域農業の生産性向上をめざす研究を行っています。



### ■ 地域資源の活用技術開発

放牧や食品残渣を飼料に利用した畜産、飼料・バイオマス用作物の開発や畜産廃棄物等の有機物資源の利用技術の開発を行っています。



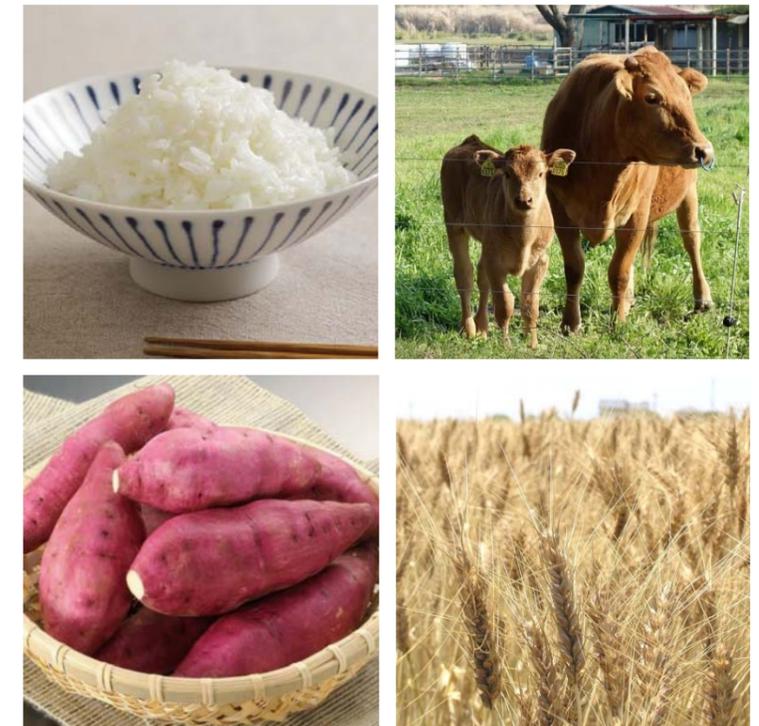
問合せ先: 九州沖縄農業研究センター広報普及室  
所在地: 〒861-1192 熊本県合志市須屋2421  
TEL:096-242-7682 FAX:096-242-7543

メール: [q\\_info@ml.affrc.go.jp](mailto:q_info@ml.affrc.go.jp)  
ウェブ: [www.naro.affrc.go.jp/karc](http://www.naro.affrc.go.jp/karc)

九州沖縄農研 | 検索

(2014.03 作成)

## 九州・沖縄の農業現場で役立つ イチ押し成果ベスト10 普及技術編 (普及が進むおすすめ成果)



九州沖縄農業研究センター

NARO KARC